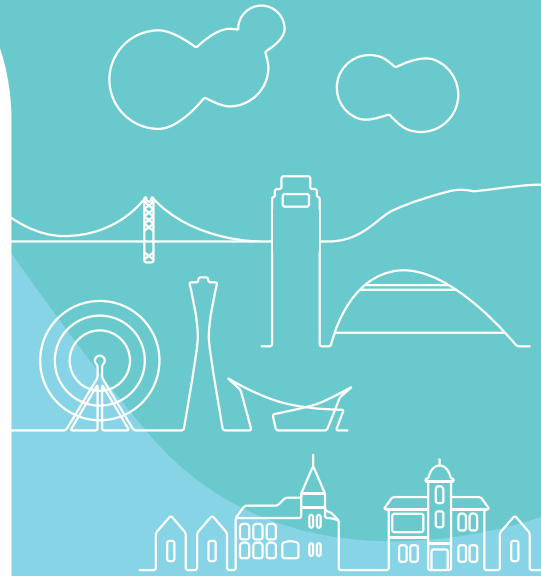


神戸大学大学院保健学研究科 地域連携センターとは

兵庫県は今後、人口減少・超高齢化の加速が一層深刻となると予測されており、子育て高齢化問題への対策は急務です。
 出産・子育て支援を充実させ地元の若返りを図るとともに、健康寿命の延長を図り高齢者の社会参画に努める必要があります。
 保健学研究科地域連携センターは、看護師・理学療法士・作業療法士・臨床検査技師等の養成課程が連携し、多職種によるより効率的な少子高齢化社会に対応した地域支援活動を実施していく中で、地域住民の多様な健康や環境づくりの課題に対応できる能力のある人材を育成することを目指します。



神戸大学では、教育と研究と並ぶ第三の使命として、社会との連携及び協力をより重視していくこととしており、人的・物的資源の活用（理工系に限らず、人文・社会科学系を含む）知的成果の社会への還元に積極的に取り組んでいます。



神戸大学大学院 保健学研究科 地域連携センター

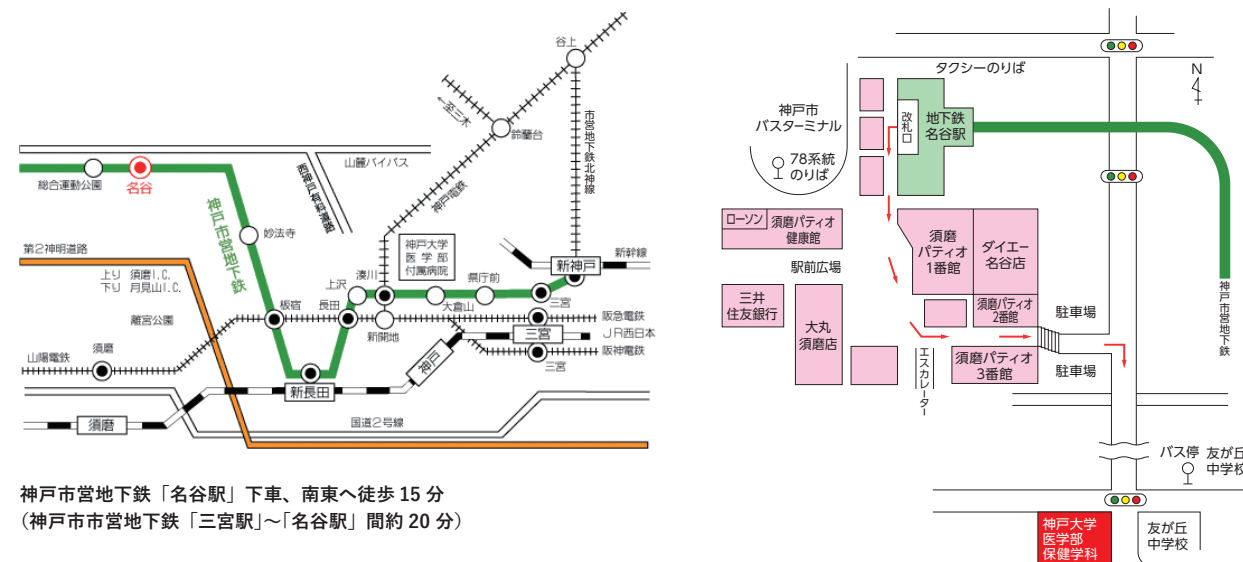
少子高齢社会だからこそ

少子高齢社会が語られて久しくなります。
 そして、その状況は既に始まっているようです。たとえ他人と違ったところがあったとしても、たとえ障害を持っていたとしても、かけがえのない「命」に違いはありません。皆が生きる意味を持ち、役割を持って生きています。それら「意味」や「役割」を大切だと思うからこそ、寄り添っていけると信じています。
 少子高齢化は社会にとって経済的には負担かもしれませんが、人々にとって大切にしなければならないものはっきりしてきたと考えれば、数えきれない財産を持っていることが分かります。
 人は財産です。大切に、はぐくむための健康や環境づくりはたくさんあるはず。無理のない範囲で、少しずつでも歩んでいきたいと思っています。

保健学研究科地域連携センター概要

- 開設**
2003年6月
- センター長**
和泉 比佐子（神戸大学大学院保健学研究科 教授）
- 副センター長**
林 敦子（神戸大学大学院保健学研究科 准教授）
- 事務局**
〒654-0142 神戸市須磨区友が丘 7-10-2
神戸大学大学院保健学研究科 地域連携センター内
- 協力機関**
神戸市発達障害者支援センター／神戸市総合児童センター／神戸市健康局／北須磨自治会
- 提携自治体**
神戸市・丹波市・三田市

交通アクセス



神戸市営地下鉄「名谷駅」下車、南東へ徒歩15分
 (神戸市市営地下鉄「三宮駅」～「名谷駅」間約20分)

神戸市営地下鉄「名谷駅」下車
 徒歩：南東へ15分
 バス：神戸市バス78系統「友が丘中学校前」下車徒歩3分
 タクシー：名谷駅から約5分

神戸大学大学院保健学研究科地域連携センター

<https://www.edu.kobe-u.ac.jp/fhs-renkei/>



私たちが目指すもの

神戸大学大学院保健学研究科地域連携センターは、

- 教育と研究を通して、自宅で生活される方々の健康や環境づくりを応援します。
- 歴史的な文化環境や自然環境を大切に、住民や学生の活力を引き出すことに努力します。
- 神戸大学地域連携推進室の理念にしたがい、保健学研究科教員と自治体やNPOの連携窓口となります。

それぞれの活動では、

- 対象者や連携団体だけでなくスタッフを含めて人権を尊重し、等しく支援できるように努めます。



Kobe University Graduate School of Health Sciences

Regional Collaboration Center

13の事業と取り組み

事業

1. 就学前の発達障がい児とその家族に対する支援事業

『ぼつとらっく』は、主に就学前の“発達に気になる子ども”と家族のための教室です。この教室では、保護者が発達障がいについて学ぶ「講習会プログラム」と、保育士や特別支援教育経験のある教員の指導のもとで学生ボランティアの託児を行う「子どもプログラム」を実施しています。現在は大学施設および神戸市の協力を得ながら、月1回、土曜日に行っています。また、夏には就学後の発達障がい児の保護者を対象に「就学後の集い」を実施しています。



2. 医療と福祉の連携による障がい者への生活支援事業

地域の障害者福祉施設ケアスタッフと連携を取りながら、施設利用者の生活支援において生じる課題に取り組むとともに、利用者が安心して地域生活できることを目指して活動に取り組んでいます。主な活動は、学生ボランティアによるレクリエーションや生活・外出支援等の支援活動、学習会やケース相談等ケアスタッフへの支援活動、施設が主催する地域交流事業における付添いボランティアや保健学科の専門性を活かした活動の実施などの後方支援です。



3. 地域高齢者・認知症の方とご家族への支援事業

地域高齢者、認知症の方とご家族を対象に、「その人らしさを尊重する社会」に焦点をあて、医療福祉専門職者の協働による認知症予防・治療・介護を中心とした支援活動を行っています。事業として、(1) 地域高齢者・家族及び医療福祉関係者への認知症についての啓発・実践力向上のための研修会・講演会の開催、地域高齢者を対象とした運動プログラム、(2) 地域高齢者へ向けた認知症予防のための年1回のタッチパネルを用いた認知症検診・検診後の相談を行っています。



4. 自治体の保健事業支援

少子高齢社会に適した地域づくりを目指して、自治体における効果的な保健事業の展開のために、地域の健康課題の明確化、保健計画の立案や評価について支援活動を行っています。また、地域保健活動を担う自治体保健師のキャリアラダーに基づく人材育成についても支援を行います。この事業は2018年度より開始し、PDCAサイクルに基づく保健活動や人材育成計画についての研修会や個別支援を行い地域連携を推進しています。



5. 子宮頸癌啓発活動

子宮頸癌は、ヒトパピローマウイルス (HPV) の感染が原因となり発症します。この癌は、20歳台後半から急増し、年間約3,000人が命を落としています。子宮頸癌は定期的な検診で防ぐことができますが、日本の検診受診率は先進国の中で最低となっています。そのため、HPVと子宮頸癌の関係や検診の重要性などについて啓発活動を行っています。



6. 家族支援相談事業

「家族お悩み相談室」では、在宅療養に関するご家族の困りごと相談、慢性疾患をもつ家族がいるご家族の療養相談などを行っています。家族支援に精通する家族看護の専門職者が、ご家族と一丸となり、ご家族が抱える悩みや困難を解決に導くさまざまなツールを用いて、家族全体の幸福と家族機能を高める最適なサポートを実施しています。2017年10月より完全予約制(無料)で、大学への来所、家庭訪問、ソーシャルソフトウェアやビデオ会議ソフトウェアを使用したオンラインで家族支援の相談を実践しています。



7. のびのび運動ひろば事業

神戸市北区にあるしあわせの村にて、公益財団法人こうべ市民福祉振興協会が主催する小学校1-2年生の“発達に気になる児童”とその保護者を対象とした運動教室「のびのび運動ひろば」に連携して取り組んでいます。教室では、運動全般が苦手な子どもを対象として、走る、投げる、跳ぶといった基本的な体の動かし方を遊びながら身につけることを目指します。運動指導員の作成した運動プログラムの下で、学生ボランティアがひとりひとりの児童のペースに合わせて参加をサポートしています。保護者に対しては、発達障がいや家庭で運動を行うヒントについて学ぶ「保護者プログラム」を実施しています。時期を区切った複数回の連続プログラムで子どもだけではなく、保護者同士の意見交換や交流を促進する機会としています。



8. 精神障がい・発達障がい者をサポートするNPO法人のサービス向上に向けた支援事業

地域で暮らす障害をもつ人を実際に支えるのは、病院や施設ではなく、小さな民間団体です。NPO法人中央むつみ会は、地域で40年を越えて多くの地域在住の障害をもつ人を支援し、神戸市から事業委託も受けています。多くの障害をもつ人が支え、支えられ、共に成長してきました。保健学科の教育に、利用者の中で精神障害をもつ人が参画しています。法人におけるサービス向上を目的に、職員の専門性を高めるため医療・リハビリテーションの視点で研修を定期的実施しています。つまり利用者は教育に参画し、教員はその利用者を支える職員の教育に参画するという連携を継続しています。



9. 地域の子どもの居場所づくりボランティア

横尾ふれあいのまちづくり協議会の“横尾子どもの居場所づくり「あさひ教室」”に、学生たちがボランティアとして協力しています。神戸市子どもの居場所づくり事業として地域の方々によって運営されている「あさひ教室」は、地域の小学生を広く受け入れ、学習支援や遊びを通して地域の中で子どもたちの育ちを支え、見守る場所になっています。そこに大学生・大学院生である学生たちが加わることで、多世代交流の場にもなっています。学生は学習支援の部分を中心にお手伝いをし、子どもたちの放課後を見守っています。



10. 地域の小学校における保健室ボランティア

神戸市にある学校で、養護教諭の先生と連携・協働し、保健室を訪れる児童・生徒の勉強をみたり、話し相手になったりするなどのボランティア活動を行っています。児童・生徒が保健室を訪れる理由としては様々であり、各児童・生徒のニーズにあわせて関わりを行っています。ボランティアに参加する大学生も様々な背景を抱える子どもたちへの支援や学校保健について深く考える機会になっています。



11. ハイリスク児を持つ親への育児支援事業

極低出生体重児と家族を対象とした教室「YOYOクラブ」は全国に先駆けた育児支援事業として神戸市で定着しています。教室は、神戸市総合児童センターにて毎週火曜日午前中に開催しており、修正3か月～2歳6か月までのお子さんを対象としています。神戸大学医学部保健学科の学生や保健学研究所の大学院生などがボランティアスタッフとして参加しています。



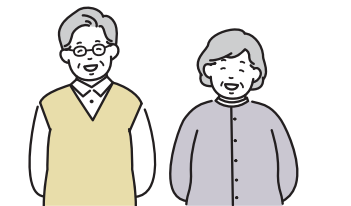
12. 身体障がいを抱える方のアクティビティ支援事業

神戸市須磨区の須磨海水浴場においてNPO法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクトが7～8月の海水浴期間に主催するユニバーサルビーチに連携して取り組んでいます。NPOのスタッフらと共に事前に講習会を受講した学生ボランティアなどが開場前に協力してビーチマットを敷き、来場者の状況に合わせて救命胴衣の着脱から水陸両用アウトドア車イスへの乗り降り、海への入水をサポートし、一緒に海水浴を楽しんでいます。



13. 地域で暮らす高齢者とご家族のための健康相談事業

本事業では、「病気があっても、住み慣れた自宅で自分らしく生活する」ことを目標に、地域で暮らす高齢の方々とそのご家族のための相談会を開催しています。例えば、急に介護が必要になられて困っている、自己管理をするようにいわれたが具体的にどうすればよいかわからない、高齢のご家族との関わり方が難しいなど、困りごとは様々です。まずはご相談いただける場として、本事業の相談会をご活用ください。



取り組み

地域連携センター主催セミナー

〔地域連携センター報告会〕
地域連携事業の取り組みを学内外に広く知っていただくため、年1回保健学研究所地域連携センターの報告会を開催しています。この報告会は保健学研究所が進めている地域連携事業の活動を紹介するとともに、学生・教員・関係組織及び自治体等多くの方々への参画と協働を目標に開催しています。

